

第 136 回 医療ビジネス研究会のご案内

医療技術の進展は完治に至らずとも、病と共生し長生きを可能とするなど不可能を可能とする状況を創り出してきました。例えば、髪の毛一本分の精度(100 μ)で腫瘍と脳神経を精緻に切り分ける高線量一括照射のメス(ガンマナイフ)が、生きる希望を失いかけた患者に大きな希望を与える状況があります。同時に診療や治療は医師や医療機関にとっては業務の根幹ですが、患者にとっては人生という長い「線」のなかでは一点(通過点)に過ぎないことなど、価値判断は必ずしも医者と患者では同じではない事も認識する必要があります。

また、医療分野では広告規制や医師の供給が制約されているため、財やサービスに関わる情報が利用者に伝わらない状況がみられます。社会が目指す自由で平等な社会においては、選択肢のない状況や知らされない状況は未成熟な状況として忌避され、社会的課題として改善されてきた歴史があります。況や、情報の偏在や偏った認識の浸透で、治療方針等、患者の適切な選択や判断を阻害することは避けなければなりません。

そのような、サービスの提供者と受益者の情報格差や認識の摺合わせや違いの修正は、当事者間だけの事ではなく、広く生活者(納税者)が認識し社会が共有すべき事でもあります。今回は先端医療に従事される林基弘氏をお招きし、医療が患者の人生に及ぼす影響(先端医療の可能性)に関してお話を頂きます。同氏は先端脳神経外科手術において 1 万人に近い臨床実績を持っていますが、病状のみならず患者個々人の状況や価値観に沿った治療が必要であると認識されています。

個々の患者に向合う医療:IBM(Individual based medicine)に関して、具体的事例を交え解説頂きます。医療技術的な話だけではなく、日本人の 2 人に 1 人は罹患するといわれる癌の脳転移や小児難治性疾患治療の事例を中心に、患者やその家族が抱く思いや不安などの内面的な状況にも言及頂きます。当事者の不安や心配事は病そのものに止まらず、社会的サポートがあるのかどうか等々、制度や治療終了後の人生にも及びます。

成熟社会におきましては従来のような画一的な医療だけではなく、病を抱えた生活者を支える制度の充実や、患者や家族の意向を尊重した治療を選択できる社会を目指すことも必要なようです。医療関係者のみならず、多くの生活者(納税者)にもご参加頂きたくご案内申し上げます。

2019 年 1 月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ:「人生ファクトリー/自分らしい人生を取り戻せ」=脳神経外科先端医療ガンマナイフ治療最前線=
- 講師:林 基弘 氏、医学博士、東京女子医科大学脳神経外科・ガンマナイフ室長、一般社団法人国際医療交流推進機構(IMC)理事長、フランス脳神経外科専門医師資格(Diplome d'AFSAde Neurochirurgie)、日本脳神経外科学会評議員・代議員、日本ガンマナイフ学会理事、日仏医学会理事、ほか
- 開催日時:2019 年 1 月 31 日(木曜日)18:30~20:30

以上

※ 医療ビジネス研究会への参加には受講票が必要です。参加を希望される方は弊会 HP よりお申込みください。